

■研究・実践の課題（テーマ）

幼稚園・保育園等における感染症対策と衛生管理（手洗い等）に関する研究

■主任研究者 岸本満

■共同研究者 福岡恩

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

【目的】幼稚園教育要領および保育所保育指針には、園児の生活習慣を培う場として適切な環境整備を行うことや清潔を保つための行動を園児が能動的に行えるようにするなど、衛生的な環境の保持、衛生慣行の習慣化に関連した事項がある。保育所保育指針「5章健康及び安全の環境及び衛生管理並びに安全管理」の「④子どもへの衛生指導」では、特に手洗いが重要であり、正しい手洗い指導をすることが述べられている。

2014年度にA県K市のA幼稚園・B保育園で行った手洗いについての实地調査で、登園から降園までの一日を目視観察したところ、園児の手洗いは好ましい状態ではなかった。また洗剤は固形石鹼を主としていた。先行研究によると固形石鹼には細菌が繁殖する。また、手の巧緻性が未熟なことから泡状ポンプ式洗剤を使用した方がより良い手洗いが出来ることを予想させた。そこで、①固形石鹼をやめ、泡状ポンプ式への切替えをする。②園児が衛生的に効率的な手洗い法を習慣づけることを今年度の研究の目的とした。

【方法】予め研究内容と趣旨を説明の上同意が得られたA県K市のB保育園の園児（3～5歳児計83名）と担任保育士を対象とした。各クラスの手洗い場の手洗い洗剤を泡状ポンプ式への切り替えをするにあたり①ビデオカメラで手洗い状況の撮影（設置前）②菌数測定③泡状ポンプ式手洗い洗剤の設置④ビデオカメラで手洗い状況の撮影（設置後）をした。また、2016年10月と2017年3月に手洗い教室を実施した。①と④は、各保育室前の手洗い場に定点カメラを設置し、撮影した。それを手洗い時間や方法、傾向などを計測し解析した。②は石鹼ネット、石鹼、水道カラン、ハンドソープボトルヘッドの一般生菌、腸内細菌科菌群、黄色ブドウ球菌について、ペトリフィルム（3M™ Petrifilm™ Plate）へ接種し培養し、菌数測定をした。③はサラヤ株式会社のシャボネットモイストをスマートボトル 500mL 泡ポンプ付石けん液用へ詰め替えて設置した。手洗い教室は手洗いチェッカーを使用した手洗い指導を実施した。10月の教室では自身の手洗いの現状を知ること、3月の教室では正しい手洗いについて説明をした後、丁寧に手洗いをしてもらった。

【結果】手洗い状況の撮影について、年少児のある一日の2時間程で、用便後と思われる園児述べ19名が手洗いをしていなかった。これは、クラス人数に対し8割程となる。（手洗い状況の撮影はカメラを設置後1か月ごとに実施していたが、結果については解析中である。）菌数測定では、石鹼ネット、石鹼、水道カラン、ハンドソープボトルヘッドすべてに黄色ブドウ球菌が検出された。泡状ポンプ式手洗い洗剤設置後の使用量の経時変化は、

ほぼ同量で推移している。